



耕心 ～夢追いかけて～

佐世保市立吉井中学校
学校だより 第19号
文責 校長 川口 貴晴
令和2年7月2日(木)発行

【学校教育目標】自ら生きる力を培う生徒の育成

【めざす学校像】生徒一人ひとりの夢と志を育む学校

【一徳運動】「みそあじ運動（みなり・そうじ・あいさつ・じかん）」

中

佐世保空襲について

75年前のきょう、佐世保市は焼け野原になった。1945年6月28日午後11時58分から翌日未明にかけての佐世保空襲。1242人が犠牲となった▲米軍による本土空襲は44年秋以降に本格化した。当初は軍需工場などを標的にしていた米軍だが、十分な効果がないとみると、火災を起こす焼夷(しょうい)弾で市街地を攻撃する無差別爆撃に切り替える▲約10万人の犠牲者を出した東京大空襲から3カ月半余り。大雨を突いて佐世保上空に突如現れた米軍のB29爆撃機編隊は、約千トンの焼夷弾を市中心部に落とし続けた。人々は猛火の中を逃げ惑った。全戸数の35%に当たる約1万2千戸が焼失し、6万人超が被災した▲73年に「佐世保空襲の記録編集会」が発行した「火の雨」は生々しい証言記録集だ。炎で黒焦げになった人、機銃で撃ち抜かれた人、大人数が一気に防空壕(ごう)に逃げ込んだために押しつぶされて窒息した人。一般市民を狙った慈悲のかけらもない殺りくは8月9日の長崎へとつながってゆく▲「火の雨」はこう訴える。「(戦争は)いかなる犯罪よりも重い超一級の重犯罪であることを私たちは知らねばなりません」▲戦後75年がたち、戦争を知る人は著しく減った。体験者の証言はむろん、残された記録、すなわち過去からの声にも耳を澄ませていきたい。6月29日付長崎新聞「水や空」より

先日の平和学習の日、長崎新聞に「佐世保空襲」の記事が載りました。改めて、皆さんにお伝えして、平和について考えてもらいたいと思います。今号では、平和学習の生徒の感想を紹介します。

○私は、小4で佐世保に来ましたが、それまで佐世保空襲のことを知らなかったし、6月29日に平和学習もしていませんでした。今回、6回目の佐世保空襲の平和学習でしたが、今まで以上に空襲について深く考えることができました。私が印象を受けたことは、空襲で使われた兵器と模型でした。実験に使われた兵器を見て、「たくさん落ちてきたなら逃げても逃げられないな」と感じました。私は、四ヶ町アーケードで、高校生平和大使がしている募金活動を見て、募金に協力したことがあります。たった少しでしたが、多くの高校生に「ありがとう」と頭を下げられたとき、高校生平和大使の方たちの平和に対する思いは、本気なんだなと思いました。一人一人では、できることは限られると思うけど、何十人、何百人となれば、「少し」も「たくさん」になると思います。

○今回の平和集会で改めて戦争のつらさや、平和の大切さを考えることができました。一番心に残ったのは、何月何日に原子爆弾や空襲が起きたかを、他県の人からあまり知らないということでした。しかし、外国では、長崎や広島、空襲のことを知ってもらっていて、とても嬉しいなと感じました。空襲の映像を見ると、生きている人が焼けていたり、親とケンカをしたままもう会えなくなったりというのがあって、とてもつらいだろうなと思いました。これから、自分に何ができるかを考えて、行動していきたいと思いました。世の中の人から小さい優しさや、少しずつ平和や戦争について考えていくことができれば、いずれ平和な世界が訪れると思うから、小さなことを積み重ねて、自分の周りから平和になっていけばいいなと思いました。

○平和学習で、戦争について学んで、今は戦争もなく平和な世の中だと思っていたけど、まだ核兵器やミサイルなどをもっている国がたくさんあることを知りました。戦時中は、食べ物が少なくなり虫を食べていたことに衝撃を受けました。日本が、中国の重慶で無差別攻撃を行っていたことを知り、今までは原子爆弾を落としたアメリカなどの国々が人をたくさん殺したことなどについて学習していたけど、日本も他の国に対してどのようなことをしたのかということについても学び、二度と同じ過ちを繰り返さないようにしたいと思いました。私たち中学生にできることは、少ないと思うけど、今、しっかりと正しい知識を身に付けて、後の世代の人につなげていきたいと思います。

○毎年、6月29日を迎えるたびに身近なこの街で空襲があったと想像すると、とても恐ろしいと思う。昔の人は、どんな思いを持っていたのかは、僕たちには分かることもあれば、分からないこともある。なぜなら、僕は戦争の恐ろしさは分かっているが、体験はしていないので、その恐ろしさは、その時空襲を受けた人にしか分からない。だから、今のうちに戦争を経験した人から話を聞いて、また次の世代へと伝え続けたいといけな。つまり、話を詳しく聞くのは、もう10年程度しかないかもしれない。もっと言うと、もう今が最後かもしれない。今後の生活を意識していきたい。

○「原爆パネル展」の「きのこ雲の写真」を見て。

きのこ雲は、原子爆弾が投下された後にできあがった雲で、本当は落とされなければ今見ている空と同じように青空なんだなと思いました。今見ることでできる青空は平和の象徴でもあるんだなと思いました。



●●テスト！がんばっています

今日は、3年生が第1回目の実力テスト、2年生は県学力調査に挑んでいました。特に、3年生は夏休みに実施される三者面談の貴重な資料になることから、真剣そのものでした。また、2年生も、中学校での1年間の学びの定着度をはかる重要な調査ということで、懸命に頑張っていました。ここで生徒の皆さんに考えてほしいことを1つ。楽しい授業はもちろん大切ですが、楽しいだけでは学力は身に付かないことが多いものです。学力の定着には、地道な努力をして覚えたり、習得したりすることが重要です。学校の授業だけでは、それは実現するのは難しいことです。いわゆる「自学」が不可欠だということです。皆さんが、部活動の練習だけでは満足できず、帰宅後や部活動がない日に「自主トレ」をするのと同じです。勉強も運動も「何か」を身に付けるためには、地道な取組・努力が重要だということです。

3年生は、もう1日頑張ってくださいね。

新しい先生が着任！

7月1日より、新しい先生が本校に着任しました。（詳細については、7月1日付の文書を配付しましたので、ご確認ください。）

吉井中学校の皆様、初めまして。7月1日より吉井中学校へ赴任してまいりました山下喜代美です。保健体育科の授業を担当します。今年の4月から夫の仕事の転勤で、長崎市から佐世保市へ引っ越してきました。佐世保のことは分からないことが多いですが、少しずつ慣れていこうと思います。佐世保は花がいっぱいでとても癒されます。歩道や家の庭などに花が植えられていてとてもステキだと思います。弓張岳からの眺めも最高でした。これからよいところをたくさん見つけていきたいです。3月までは、長崎市内の中学校に勤務していました。4月からの3か月間は中学生の生徒たちと接することもなくなり、寂しい日々を送っていましたが、今日からは、吉井中の皆さんと一緒に授業ができて嬉しいです。皆さんは、運動が好きですか？



そうでない人も様々でしょう。安全に楽しく、少しでも上達する方法を考えていきましょう。“できる限りを精一杯頑張る”これが私は一番だと思います。今年度は、コロナウィルスの影響で、体育大会が11月になったそうですね。よい思い出になる行事にしたいですね。どうぞ、よろしくお願いします。

お世話になっている方々の紹介

本校では、学校の先生以外にもお世話になっている方々がたくさんいらっしゃいます。今回は、スクールカウンセラーと心の教室相談員のおふたりを紹介します。（自己紹介のメッセージです。）

◆「スクールカウンセラー」の蛭川誠嗣先生



今年、4月よりお世話になっています。スクールカウンセラーの蛭川です。“思源飲水”（中国のことわざ）水を飲む時は、水が生まれる源を考え思ってみよう。生活の中で何か事が起こる時は、その要因となるものは何かを考えてみましょう。誰

でも不安を持っているものなんです。不安をよい方向に変えていく力を身に付けていきましょう。

*** 蛭川先生は、水曜日（不定期）の10時～15時まで勤務されています。ご相談があれば、遠慮なく学校にお電話ください。随時、予約を受け付けています。**

◆「心の教室相談員」の男澤不二美さん



こんにちは、心の教室相談員の男澤です。心の教室相談員を6年、学校支援ボランティアとして7年、吉井中学校にお世話になっています。施設等の仕事よりも大変な時もありますが、生徒の成長を見届けられた時、全員の生徒が孫に見えてきます。学校では小言の多いおばあちゃんのような存在ですが、ヨロヨロとしている私を職員室の先生が支えてくださり、頑張っています。時々同じことを言って生徒に注意されていますが…。

月・木・金の午前中、2階の部屋にいますので、お近くに来られた時は、お茶でもどうぞ。

ひまわりの新芽が何者かに…

ひまわりの芽が出たと思ったらほとんどの新芽がなくなっていました。「鳥が食べた説」や「ナメクジ出没説」などが飛び交っています。一体何者の仕業でしょうか？大きな謎です！



